

◆ 第 18 回災害復旧ボランティアは、「熊本市」へ初の県外活動実施



(作業終了後、皆さん笑顔で活動記念写真)

筑後信用金庫災害ボランティア部隊（参加者 9 名）は、5 月 28 日（土）熊本市ボランティアセンター東区サテライトにおいて、小雨の中、個人宅の瓦・赤土等の撤去、大型家具の移動・部屋の整理等の活動をしました。

有志による災害ボランティア部隊は、4 年前の九州北部豪雨以来、八女市、うきは市において通算 17 回の活動を実施してきましたが、今回 4 月に発生した熊本地震による被災に対し、余震をいまだ警戒する中、少しでも被災者の手助けとなるべく、初の県外活動として、第 18 回災害ボランティア活動を実施しました。

一行は、当金庫広川支店を午前 7 時 20 分に出発し、九州高速道路広川 IC から益城熊本空港 IC へ、途中車の横転事故等の渋滞に巻き込まれながら、東区サテライトがある熊本市東区健軍へ午前 9 時 5 分到着。途中、テレビ報道番組で見た 5 階建ての 1 階が潰れたビル、倒れたブロック塀、剥がれた外壁やブルーシートで覆われた屋根を目にしました。

本日の東区サテライトでは、37 件のボランティア依頼に対し 6 団体（189 名）及び一般 17 名合計 206 名で対応しました。作業内容は、ガレキ撤去から個人宅の清掃などいろいろありました。参加者がテントで待機する中、スタッフより次々の依頼内容（作

業内容、男女別の要請人数) が告げられるのに対し、挙手にて参加の意志を伝え決定されます。私たちは、4名と5名のグループに分かれて、個人宅の作業(午後3時終了)にあたりました。

4名グループは、団地ひとり住まい 77歳女性宅で、大型家具の移動と清掃及びごみ出しでした。休憩時に、M7地震の様子を伺うと「団地建物には影響がなかったが、どの家庭も室内の家具が倒れ、ガラス類が割れて、生きた心地がしなくて助かって良かった。」と話され、また話の途中「地震がドン・ガタガタと来たんですよ。」と何回も言われたのが印象的でした。

5名グループは、平屋建ての広い庭がある 79歳男性宅で、落下した瓦や赤土などの撤去作業でした。作業は途中雨の中大変だったようです。被害額は屋根だけでも一千万円かかるのではないかと話されたようです。

今回は、個人宅での作業であったため、作業状況の写真撮影を控えました。



(東区サテライト駐車場)



(団体参加者の表示、中央の下に当金庫名あり)



(テントでの待機中)



(作業決定後の内容打合せ中の様子)

皆様、大変お疲れ様でした。次回も、一緒にがんばりましょう。